

リウマチ整形外科医を志して

佐藤 良[†]第77回国立病院総合医学会
2023年10月21日 於 広島

IRYO Vol. 79 No. 1 (24-27) 2025

要旨

第77回国立病院総合医学会において、リウマチ学のおもしろさとはーリウマチ専門医をめざしてもらうためにーと題したシンポジウムにて、若手医師に対するアンケート調査の結果をもとにリウマチ整形外科医を志した理由、実際になってからの状況を紹介し、今後リウマチ整形外科医を増やしていくための課題について述べた。

【方法】名古屋大学整形外科とその関連病院による多施設共同研究 Tsurumai Biologics Communication Registry (TBCR) に参加しているメンバーのうち、卒後15年目までのリウマチ整形外科医を対象にアンケート調査を実施した。【結果】卒後平均年数 10.2 ± 2.5 年の17名のリウマチ整形外科医から集計した。1) リウマチ整形外科医を選んだ理由としては、「勧誘されたから（特に部長クラスの医師から）」が最も多く、次いで「リウマチ薬物治療に興味があったから」という結果であった。2) リウマチ整形外科医を志してもらうにはリウマチ学の魅力を伝えるための環境を構築することが重要で、診療（外来・手術）の共有や学会参加、学外での時間の共有が必要。3) リウマチ整形外科医は手術、骨・関節など運動器の知識や身体機能評価に長けている反面、リウマチ内科医と比べると合併症対応やその他の膠原病・全身性結合組織病の鑑別が劣っているという意見が多かった。さらにリウマチ内科医と連携ができていないという意見も散見された。【結語】リウマチ整形外科医を志す動機として勧誘と共有（症例、経験、時間）が非常に重要であることを示した。さらに整形外科・内科という垣根を越えたリウマチ診療における連携が構築されることでリウマチ学に対する魅力を伝える機会を増やしていくことがわれわれの今後の課題である。

キーワード リウマチ整形外科医, リウマチ学

はじめに

関節リウマチ（rheumatoid arthritis：RA）は本邦において0.5-1%程度、およそ80万人が罹患する疾患であり、関節症状という観点からわれわれ整形

外科医がRA患者を診療する機会は少ない。

しかしながら、近年リウマチ整形外科医を志す若手整形外科医が減少している。RA治療が進歩し、それに伴い関節破壊の進行をより確実に抑制することが可能となったことで手術件数が減少しているこ

名古屋大学医学部附属病院整形外科 [†]医師
著者連絡先：佐藤 良 名古屋大学医学部附属病院 整形外科 〒466-8560 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65
e-mail：ryo_4amm1222@yahoo.co.jp
(2024年3月29日受付 2024年10月25日受理)
Aspiring to be a Rheumatology Orthopedic Surgeon
Ryo Sato Nagoya University Hospital
(Received Mar. 29, 2024, Accepted Oct. 25, 2024)
Key Words：Rheumatologic Surgeon, Rheumatology